

# 第3学年A組 算数科学習指導案

日時 令和元年6月12日(水) 第5校時  
場所  
授業者

1. 単元名 わり算
2. 児童の実態  
乗法の計算の仕方を理解し、3けた×1けたの計算ができる。しかし、文章問題から正しく読み取って立式することや初めての除法で理解に戸惑っている児童がみられるので問題場面の把握をていねいに扱い具体的操作を十分に行って理解を深めていきたい。
3. 研究主題について「見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方」  
研究内容1 「数学的な見方・考え方」を働かせて数学的活動を行い、児童に身に付けさせたい「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の明確化  
研究内容2 児童自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにする評価
4. 本時のねらい  
半具体物の操作や作図などを通して、同じ数ずつ分けていることに気付き、何人に分ける場合でも「わり算の式」で表してよいことが分かる。
5. 本時の展開 (3/9)

	学 習 活 動	指導・支援と評価規準
つかむ	1 問題場면을把握する。 いちごが12こあります。1人に3こずつ分けると、何人に分けられるでしょう。 ・昨日までは、1人分の数を求めたが、今日は人数を求める。 人数を求めるときの答えの求め方を考えよう。	【実態の見届け】 ・具体物を等分し、図や式に表すことや乗法の九九の構成の学習において、次のことが身についているか、事前のレディネステストや当該時間の学習ノートから見届ける。 ・場面を○図に表すことができるか。 ・場面を乗法の式で表すことができるか。
	2 課題解決の見通しをもつ。 ・おはじきを使う。 ・図に表す。 ・ひき算を使う。 ・かけ算を使う。 3 個人追究する。 ・半具体物を操作したり、ノートを指し示したりして声に出して説明する。 ・その後教科書P69の4人の考え方をみて説明する。 おはじき ひき算 1人め 12-3=9 2人め 9-3=6 3人め 6-3=3 4人め 3-3=0 答え 4人 丸図 かけ算 1人分 3×1=3 2人分 3×2=6 3人分 3×3=9 4人分 3×4=12 答え 4人	・半具体物を操作し等分除の場面とは分け方が違うことに気付かせる。 ・第1時と同じ方法で解けばよいことに気付かせ、解決の見直しをもたせる。 【学習状況の見届け】 (個人追究時) ・半具体物や図、式から包含除の場面と理解し説明できているか見届ける。
考えをもつ	4 全体交流をする。 5 考えを修正・一般化する。 ・ペアで交流する。 ・3個ずつ分けている。3個ずつ引いている。だからわり算で求めてよい。 ・全部の数÷1人分の数=人数 ・12(わられる数)÷3(わる数) 6 キーワードを使って本時のまとめをする。 人数を求めるときも同じ数ずつ分けているのでわり算の式で求めるとよい。	〈研究内容1〉 ・課題解決の見通しがもてない児童は前に集めおはじきの操作を手がかりに問題解決できるようにする。 ・教科書P69の4人の考え方を配付し全員が説明できるようにする。 ・全体交流では、同じ数ずつ取って分けていることを、おはじきの操作や図、式などの表現の中で、しっかりとおさえる。 ・聞く視点を明確にし、4人の考え方の類似点に気付かせ3つずつ分けている、とっていることを理解させる。 ・ペアで交流し本時の学びをより確かなものにする。
深める	7 評価問題をやる。 ● 18まいのおり紙を1人に6まいずつ分けると、何人に分けられるでしょう。 ・4つの考え方を使って問題を解く。 (式) 18÷6=3 答え 3人 8 振り返りをする。 新しく分かったことはなんですか。 ・人数を求めるときもわり算の式に表すことができる。	〈研究内容2〉 【定着の見届け】 ・問題も同じ数ずつ分けていることに気付き、除法で立式できているか見届ける。 ・ふりかえりで本時新しく学んだことが文章に表すことができているか見届ける。
確かにする		<評価規準> 等分したときの「人数」を求めるときは、除法の式に表せばよいことを理解している。【知識・理解】(ノート・発言)